常磐文藝

五色町情調

吾郎

短歌

私は或る夜流離の人の樣に空虛な心で彷徨ひました。どうして不圖私が鎌田遊廓の前を通つてゐる姿を見出したのです。

五色町君は涙にうちぬれて廓の赤き灯に見入るなり、はるばると來りて涙す五色町闇に亂れて散れる灯、夏井川流れにともし流れ行くその灯に涙する人

いとせめて廓に霧のかかる頃灯ともし頃に夢よ安かれともしびに誘はれてやがて死ぬ虫に吾れを例へし惡性の君、

過ぎし日の五色町情調のなつかしき灯ともし頃をかくるその時。

二四、六、廿三、終

處方調劑
工業藥品
染料藥品

渡邊藥局
平町三丁目
渡邊政五郎（郵便局向）

一冊の代金で御希望通りな五冊の雜誌が自由に讀める
平町長橋町三五
川崎巡回文庫
（申込次第規則書進呈）

和久井屋漆器店
漆器指物
平町一丁目
電話四〇五番

急告!!!
▼賣家
一和洋　二階建
一折裏　六十三坪六合
一下屋　二十四坪五合
一場所　平町字田町平陽實科女學校々舍
右建物賣却す希望の方は申込まれたし
委細面談……酒井

『別仕立夏トンビ！
洋傘
夏帽子
新荷着』
平町四丁目
に鶴屋
電話一四〇番

寄附者芳名廣告
合計壹千五百八拾五圓
一金五拾圓　武田精一殿
一金貳拾圓　小野圓次郎殿
一金貳拾圓　關内半平殿
累計壹千六百七拾五圓也
本廣告ヲ以テ領收書ニ代フ
大正十三年七月十七日
大瀧發電所
許可反對
同盟會

TRADE MARK
NIPPON OPHONE
レコード
……（定價表）……
オリエント印兩面　.80
ヒゴーキ印同　.90
ワシ印同　1.20
ツバメ印同　1.20
フジ印同　1.20
（以上一枚毎に景品呈上）
ツバメ印レコード
會社と海岸線一手特約祝として向ふ二ヶ年間同印兩面レコード一枚一圓宛で差上ます
（毎月新譜取揃有）
平町一丁目（電話三三九番）
常盤屋時計店

こりや驚いた。誰でも驚く。
馬鹿に値が安いぢやないか。
ピスケット百匁
金二十錢
平町四丁目
マツモトヤ
モシモシ　二一四
振替仙臺　六四一三

入院隨意
内科
小兒科
皮膚科
花柳病科
平町城山（舊城跡）三の丸
青沼醫院
醫學士青沼淡夫
電話四〇三番

七月十五日より夏全月廿一日まで
時候適品!!!
◆友仙モス（一尺）十二錢
◆白縞格子（一反）八十九錢
◆手拭地（一反）八十五錢
◆白染絣（一反）一圓廿五錢
◆紺染絣（一反）一圓卅五錢
◆モス着尺（一反）五圓三十錢
◆絹羽織地（一反）五圓五十錢
其の外銘仙、洋傘、小紋錦紗上布、帶地類、紋付類、綿絹布類一切
特價賣出し!!!
磐城平町土橋
鹽屋呉服店
電話二十一番

株式賣買中値
左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

銘格	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇圓	五三五圓
平銀行	五〇〇	七一〇
磐越銀行	一二五	一〇五
磐城實舊	五〇〇	四三〇
磐城實新	三〇〇	二九〇
田村實銀	一二五	一二五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二四五
同　新	一五〇	一八八
百七銀行	五〇〇	五五〇
同　新	一二五	一六〇
七七銀行	一二五	九八
郡山電氣	五〇〇	三六五
同　新	二五〇	一六〇
只見川電	一二五	六五
植田水電	一二五	一五五
好間水電	一二五	一三〇
磐城建物	一二五	五〇
磐城製菓	二〇〇	四〇
平信託	五〇〇	二五〇
磐城勸業	一二五	一三五
植田物産	三〇〇	二六〇
平製氷	二五〇	二三〇
好間軌道	五〇〇	三三〇
入山新	三二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	六〇
磐城炭礦	五〇〇	四一〇
同　新	二二五	一八〇
磐城セメント	五〇〇	六四五
同　新	二五〇	三四五
平運送	一二五	八〇

賣買誠實懇切機敏に御取扱申候間多少に不拘御用命願候
平町田町　電話三二二番
丸登株式店
川添房二郎

常磐毎日新聞

七月十八日夕刊

價定　一部金貳錢　一月極ニ限リ一ヶ月卅錢
廣告料　五號十二字詰一行五十錢
休刊日　日曜大祭祝日ノ翌日
福島縣石城郡平町田町卅六番地　印刷所　一〇活版所
發行兼編輯人　印刷人　川崎文治
福島縣石城郡平町字長橋町卅五番地　發行所　常磐毎日新聞社

寄書

露骨

中山雅司

他人に對し自己を開放して、胸中湯氣程の曇もなく思ふ儘をスバ〳〵とやつてのける事を露骨と曰ふ

こうゆう人は、癪に觸れば王者の冠も蹴り、哀に逢へば兒女と共に泣き、快事に望めば童幼と笑ひ騷ぐ、所謂喜怒を表はさず、でなくて天眞爛漫の色、折にふれて動くと、謂つた樣な天空海濶な、そしてキビ〳〵した快男子に限られて居る

此系統に屬する人は、終始陽氣であるから、誰れも好きになる『否なら食はない、好きならねだる』といふ風だから、何處へ行つても『氣の置けない方ね』と女には好かれ、少しの失策は愛嬌として迎へられる德がある

昔秀吉は失策でも遣るとくど〳〵しく、辯解なんか仕て居ないで『どうも飛んだ失敗を遣りまして』と頭でも搔いて無造作に其場の方をつけて了ふ、光秀はさうでない、端然と如何にも物々しい態度で、色々長たらしい辯解を試みる

相手が氣短で猜疑心に富んで信長である、光秀の遣り口は兎角蟲が好かぬ、自分の非を隱さうとする樣にも、又謝罪の必要を感じて居らぬ樣にも解される

ここが兩者他日甚しい相違となつて表れた

『添へるものなら添はしてお呉れ、否れで別れた仲ぢやない』貴郎も一つお惚氣遊ばせオホホ

一種の露骨から來る快活これは酒間の斡旋に、最もふさはしいものゝ一つであると粹者は曰ふ

露骨も餘り無遠慮や、野卑に渡り過ぎると對者の感情を、害する場合もある、臭い物に蓋をして置かぬと鼻もちのならぬ事は、世間に多い、露骨者の大注意を要することはこれである。

身を退いた調停者が 再び妥協案件を提ぐ
人心の悪化を憂慮し 有力家の言を容れて
然れ共同盟會は飽迄強硬

大瀧發電所問題の調停に現れた青沼、漆畑の兩氏が平電氣對反對同盟會兩者間の距離甚だ遠く到底圓滿妥協の途なきを知り

遂に身を退くに至つた事は既記の如くであるが其後同盟會幹部五名の收監に依り益々人心は昂奮して悪化の徴あり此儘徒らに日を過ごすに於ては如何なる事態を釀すべきやも測り知れない爲め長瀬廉平、明智淺吉の兩氏は深く前途を憂慮するの餘り青沼、漆畑兩氏に對し更らに

調停の勞を執られん事を懇請せる結果兩氏は再び同問題の渦中に身を投じて解決の衝に當る事となり種々の條件を考慮中の由であるが同盟會としては此際平町の利福を度外視せる一營利會社と何等妥協すべき要なく飽迄香坂知事の許可取消を期待せんとの事に一致して居る

模様であるから平電氣が三萬町民の總べてに滿足を與へ得べき誠意を披瀝せざる限り折角の調停も水泡に歸すであらうと觀測さる

反對同盟會 常任委員協議

大瀧發電所反對同盟會にては既記の如く昨日午後三時から事務所に於て常任委員會を開き常任委員其他百數十名參集收監幹部に關する善後策及び許可取消運動の方針を熟議し前縣會議員鈴木辰三郎氏から齎された解決案の調査を町當局に一任する事に決し午後六時散會した

平電氣の 取締役召喚 長時間の取調

昨日は平電氣の大株主たる端山正男氏が平檢事局に召致され本日又同會社の事務に當つて居た取締役佐藤忠治氏が檢事局より召喚長時間に亙つて佐藤檢事の訊問を受けたが多分事件は會社成立に關する事項であつて同事件が奈邊に迄展開するやは町民の等しく刮目しつゝある處である

日照り續きは 稻の發育に 甚だ良好だ

日照り續きの爲め稻作の前途を悲觀して居る者も多いが稻の發育には寧ろ喜ばねばならぬと石城郡役所の某技手は次の如く語つた

『所々に旱魃の聲を聞き米作の前途を悲觀するやうな早合點をする向もあるが當を得ない觀察といはねばならない何故なれば旱魃の地方は水枯れと共に非常な損害を受けるが我國全體より云へば旱魃日照の爲めに生育旺盛となり株を張る率が多いので收穫に好結果を及ぼすのである旱魃は一般に稻作に好影響を及ぼすと見てよく種の發育には甚だ良好だ』

舊城跡の丹後澤から 長穗の槍一筋を發見 戊申の役に使用した物か 拾得者から屆出た

平町舊城趾丹後澤では今夏より納涼貸舟を設け賃貸中で日々釣魚その他來遊者少からざるが十七日午前十時頃平町色川材木店雇人某が右貸舟にてカタ貝採捕中戊申の役に使用しその際落城間際に於て投棄したりと覺しき長穗の槍一すじを發見その筋に屆出たといふ

銀行總會

株式會社平銀行では廿日午前九時から磐城銀行では同十時から何れも株主總會を開くと

磐城舞子へ 強行軍 好間在鄕軍人が

石城郡好間村在鄕軍人分會にては廿一日午前六時出發耐熱行軍を試み磐城舞子に至り大浦村同分會と合同し地引網を爲す由

作業中の 四人が逃走 間もなく逮捕

十六日午前八時頃野外作業を爲しゐた平刑務所の囚人が看守のすきをうかゞひ何れかに逃走したので大騷ぎとなり平署の應援を得て其逮捕に努めた結果約二時間を經て同所より二町をへだたり居る縣立磐城中學校附近の藪中にかくれゐたるを逮捕したが一時は非常なる騷ぎであつた

カテイラン 簡單な冷藏法と 冷藏器

最も簡單には、食器を入れたつるしかごの上をすつぽりと被せ、下に水を滿した樋をおいて、その布の端が水につかるやうにしておきます。或はまた食器の上に目ザルをのせ、その上からしめした布を被せておきます、これは水道の下か何かにおいて、布を常に濕めしておかねばなりません。この二つの方法は、供に水の蒸發によつて内部を冷却させる工夫なのです、それから簡單な冷藏器を作るには一尺四方位の空箱を隙間のないやうにアスベストですつかり包み前は扉にし、左右の上下に空氣がよく流通するやうな大きな孔をあけて金網を張ります、そして冷しい日の當らない戸外の地面の上へ扉を室内にむけて固着させておくのですこれは冷たい空氣が常に下から上へ循環しますから氷がなくても物が腐らないのです

鹿島村にて 稻田に鯉を 三萬尾放飼

石城郡鹿島村農會にては本年度施行事業の一として稻田養鯉の奬勵に努めてゐるが去十六日仔鯉三萬尾を購入し無償にて篤農家に配布し稻田三町歩に放飼した

募集

文藝其他一般投稿を募集します

不平受付 投書歡迎

●海岸の夏季大學● 縣下各處に天幕大學が開催される樣ですが本郡にも海岸地に適當な場所があるに拘らず一回も其計劃のないのは甚だ遺憾です、是れは夏季に於ける其方部の繁榮策にもなる事ですから是非試みる樣に郡長さんのお力添えを願ひます（お願生）

▼水野郡長の答 本郡でも磐城舞子等は天幕大學の開催地として至極適當な場所ですから其計劃がない譯ではありません機會があつたら是非開く樣にしたいと思つて居ます

常磐片々

○平町の有識者五名收監されたる其根源は大瀧發電所問題なり

○然らば罪の一端平電氣にありと云はざるべからず

○此不詳事を釀したる責を擔いて平電氣は速やかに水利權を放棄せよ

○然らざれば今後到底收拾し得べからざる事態を招來せん

○是れ天の聲也

蒼空の戀愛 夜の逢瀨

涼風に吹かれて團扇かた手に空を仰ぐと天の川がはるぐ〵として居る、天の川を見るとき聯想は七夕祭の牽牛織女を思ひ起します、支那の傳說に語られる、蒼空の戀愛史は夏の夜の讀み物にふさはしいでせう

天帝に棚機姫と申す、唯一人の美しい姫君がありました、姫は天帝と共に天の河の西の館に住んで居りましたが、機を織ることが大變に好きであつたので、誰云ふとなく、織女と呼びなすやうにやりになりました、織女は何時しか河向ふに住んで居る、牽牛と云ふ若人と戀に落ちました

◇天帝は可愛い姫のことでもあり、相手の牽牛君は立派な人物でもあるところから、この戀を叶へて姫を牽牛君の許に遣はしましたら二人は河を距てゝ長らくの間、戀慕うて居た間柄であらからたまらない、猛烈に甘い戀に耽溺して姫は宇宙よりも廣大な父君の御恩も忘れ爾來杳として音なしといふ有樣であるから天帝も◇心淋しく今更に掌中の玉を奪はれたやうな氣がして、遂に勘忍が出來ず、姫を我が膝下へと取戻したが二人の切ない戀を容れて七月七日の夜たけ逢ふことを許したのであるが、天の河には橋がない、若しその夜に雨が降れば河は溢れ、年に一度のはかない逢ふ瀨が叶はぬと云ふのでありますが、記者は天文臺の先生方に二人が首尾よく相逢うた夜の觀測をうかゞつたところ可愛いさうに毎年降りつゞきでまだ一度も一年一度の享樂を滿足させないとは全く同情にたへぬ

例年賑ふ 尼子稻荷祭禮 境内には餘興

平町長橋町鎭座尼子稻荷神社は明十九日宵祭廿日には本祭を執行する筈であるが宵祭には境内に義太夫及び浪花節等の餘興も催される筈であるから例に依つて非常な賑ひを呈するであらう

平町人事

▽出生

△紺屋町 黑須昇氏二男泰一郎
△材木町 木戸德重氏二女英子
△田町 篠原松太郎氏五男仁平
△下川泥 木村德藏氏次女マサ子
△紺屋町 渡邊榮之助三男昌夫

▼死亡

△鎌田町 瀧田ヒロ（二六）
△田町 舘島吉（四四）
△立町 正木兵治（六〇）
△鎌田町 丸山賢治（一七）
△久保町 德田初太郎（一八）
△紺屋町 當時山形縣南村山郡上山町渡邊友枝（二〇）